

2023 年度事業計画

社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団
施設名 真生園
施設長 大橋 幸司

真生園の基本方針

1. 安全で安心できる快適な生活の場や活動の場となる為の充実したサービスを提供します。
2. 互いに交わす挨拶に笑顔を添え、同じ目線に立ち温かいまなざしと優しさで支援します。
3. 利用者一人ひとりの個性や人権を尊重し、誠意をもって支援します。
4. 地域に愛され、地域と共に歩む施設を目指します。
5. 愛と希望に満ちた温もりのある施設づくりを目指します。

第5期中期計画のビジョン

障害福祉サービスをリードする施設として、ご利用者と地域の期待に応えていきます

2023 年度の事業計画について

第5期中期計画がスタートしました。新型コロナの感染防止対策に取り組みながら、入所されているご利用者はもとより、地域のご利用者の期待に応えられる施設として、障害福祉サービスをリードしていける施設を目指し、計画を策定しました。

学習と成長の視点として、現在の職員数が減り続けており、職員確保が重要課題となっています。2 月に入職されている外国人職員を出来るだけ早期に育成し、ご利用者の支援の充実に取り組みます。また、職員の専門性を高める研修や資格取得の充実も、第4期中期計画から継続して取り組んでいきます。

業務プロセスの視点として、職員数の減少を踏まえ、職員不足でQOLが低下しないように、業務改善を実施します。また、生産性向上することにより、QOLの維持向上を目指します。

顧客の支援として、個別支援計画を全職員が把握し、常にご利用者の目標が意識できる様に、職員への個別支援計画の周知徹底のシステム作りに取り組みます。また、ご利用者の重度高齢化に伴い、ご利用者・家族・施設の繋がりを継続できる組織作りに取り組みます。

財務の視点として、施設の老朽化に伴う設備等の更新が必要な場合は、可能な限り施設の財源を確保するために、リース等を積極的に活用した更新・修繕に取り組みます。

地域公益の視点として、コロナ感染で休止されている、書道や音楽療法・3B体操等の活動復帰を目指します。また、地域ニーズに応える施設独自サービスを積極的に推進します。

1. 事業概要

開設年月日：1978年5月10日

種 別	事業名	定員	主たる対象者	事業開始年月日
障害者支援施設 (第1種)	施設入所支援	60名	身体障害者	2008年4月1日
障害福祉サービス事業 (第2種)	生活介護	60名	身体障害者	2008年4月1日
障害福祉サービス事業 (第2種)	短期入所	4名	身体障害者	2006年10月1日
公益事業	日中一時支援	5名	身体障害者	2006年10月1日
公益事業	真生園診療所	—	—	1979年4月1日

2. 第5期中期計画と推進策

(1) 学習と成長の視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	目指す成果
外国人支援員の育成	計画的な人材育成	①受け入れ側職員への教育 ②育成プログラムの作成 ③メンタルヘルスケア(全職員)	・夜勤業務を単独で行えるようになる ・相互理解
専門研修と内部研修(伝達研修)の実施	階層別の研修参加と伝達研修の実施 事業所見学	①外部研修参加(対面・オンライン) ②各委員会の計画による内部研修の実施 ③職員会議での伝達研修 ④日中活動充実の為の事業所見学(2か所)	・介護技術・見識の向上と人に伝える技術を習得 ・日中活動の充実
計画的な資格取得	専門資格取得者(介護福祉士、サビ管、相談支援吸引等)	①介護福祉士資格取得(1名) ②サービス管理責任者(1名)	・個別支援計画策定 ・サービス管理責任者資格取得者が実務を担う
キリスト教福祉を通じた人材育成	理念学習会等による接遇向上	①理念学習会実施(年2回) ②牧師メッセージに出席	・キリスト教・理念の理解

(2) 業務プロセスの視点

重点実施項目	実行計画	2023年度計画	目指す成果
支援の生産性を高めるプロジェクトチームの継続	委員会の定期開催と年間テーマに基づいた実践	①2 寮制での業務の課題の抽出・改善策の実行 ②支援課内保管書類の整頓	・業務の見直しによる支援の質を高める ・安全を確保した支援
各マニュアルの更新・周知方法の確立	紙面とデータ化による支援基準を明確にする	①各種マニュアル・仕様書のファイル化と更新	マニュアルのデータベース化と閲覧周知
旧さくらの苑・单身寮の維持管理	既存施設を活用し、感染症・災害や職員確保に役立てる	① 備品管理場所の確保 ② 旧さくらの苑は解体せず、感染症対策・災害対策等に今後も継続し活用する ③ 单身寮の活用推進の為、各部屋の維持整備を実施	・既存施設の継続活用

(3) 顧客の視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	目指す成果
個別支援計画に基づく支援	個別支援計画の職員周知 計画書一式の見直し	①目標一覧表の作成掲示 (6ヵ月毎) ②支援実施書の供覧と活用	・根拠に基づく支援 ・新規書式の検討
快適な居住環境整備	利用者ニーズに合わせた老朽化備品の更新	①老朽化した食堂テーブル及び椅子を更新	食堂テーブル更新(8台)椅子(10台)、支援用椅子(10台)
リスク対策委員会の強化による事故防止	委員会の定期開催と再発防止システムを構築する	①ヒヤリハット・事故の分析方法の改善 ②ヒヤリ事故の周知 ③リスクマネジメント内部研修実施(年2回)	・前月の対策の振り返り(歯止め対策)を実施、効果確認 ・対策周知による事故防止
運営委員会・懇談会の体制整備	利用者と共に自治会組織の体制整備を行う	①運営委員会開催 ②利用者と協議が継続出来る体制を整備	・利用者の負担を軽減した体制整備と連携した運営
家族との情報共有と連携	家族会・行事を通じ連携を維持する	①年間行事の実施 ②家族会・施設行事による交流	・生活支援の充実 ・家族との情報共有

(4) 財務の視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	目指す成果
利用定員確保よる給付費収入の維持	関係機関・市町村へ情報提供を行い利用希望者の募集をする 身体機能低下による区分見直し	①利用案内資料(入所・短期)作成、関係機関への情報提供 ②認定調査による障害支援区分の見直し	・在宅者への情報提供と支援 ・関係機関との連携強化 ・給付費収入の維持
施設設備の老朽化対策	老朽化設備の更新	①新館特浴更新(リース) ②新館空調設備更新(リース) ③必要な修繕があれば実施	・新館特浴更新 ・新館空調設備更新 ・施設設備の維持
予算に沿った計画的な積立	確実な積立を行う	①予算計画による積立実施	・予算目標を達成する
外部事業所と連携し利用者の短期・生活介護事業の相互利用の強化	施設見学会・説明会を実施	①施設見学会・案内会を実施(年1回)	・支援学校からの利用、他事業所の相互利用に繋げる

(5) 地域公益の視点

重点実施項目	実行計画	2023 年度計画	目指す成果
ボランティア・社会資源の活用	外部資源(人材)を活用し利用者の活動に繋げる	①ボランティア・社会資源の活用 ②訪問事業・移動販売の拡充 ③オンラインでの外部交流	・日中活動の充実 ・外部との利用者交流
利用者の社会参加と交流	地域と定期的に交流出来る場を設定する	①地域での作品展・施設活動の紹介(年2回 竹田駅、総合事務所等) ②作品展用の創作活動	・目標に基づく日中活動の提供 ・利用者の社会参加 ・地域住民が施設を知る機会となる
施設独自のサービスを提供する	施設サービス・設備等の提供を行う	①他のサービスと連携した入浴設備の提供	・施設設備の提供(2名)
ホームページによる情報配信の強化	ホームページの更新、機関紙の発行	② ホームページの更新(2 か月毎) ②機関紙発行(年間2回)	・新規利用者の獲得 ・家族や関係機関への情報提供